

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300235		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・山手(つつじ館)		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 2 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300235-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様が今持っている力を維持出来る様、必要以上に手は出さず、見守りをしながらその方にあった介助を行っている。 ・ADEの維持にラジオ体操を始め下肢運動に力を入れています。 ・食事前には、嚥下体操をし、耳の不自由な方には、パタカラ体操の表を作り皆さんが参加できるように努めています。 ・コロナの為、外出レクが行えない代わりに、室内で季節を感じて頂ける模様物を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は北広島市の「さんぼまち」と呼ばれる地域にあって、緑豊かな高台の閑静な住宅街に木造の建物が溶け込んでいる。近くには児童公園があり、利用者は散歩しながら近隣住民と挨拶するなど交流している。バス停も近く、道路を挟んだ向かい側には避難場所である中学校がある。木造2階建ての1・2階に各ユニットがあり同じ間取りで、居間・食堂は一体的で、大きな窓から陽が入り明るく、パネルヒーター、加湿器、洗濯物などで温・湿度は適正に管理され、季節に合わせて雪だるまなど利用者と職員で作成した貼り絵などを飾って家庭的な雰囲気となっている。コロナ禍により外出なども制限されるが、時間制限して家族との面会や窓越しの面会など利用者・家族の要望に応じている。又、8月にはホームの庭で利用者が花火を楽しんでいる。コロナ禍で行事が制限される中であっても、感染対策をしながら利用者が安心して、楽しく過ごせるよう取り組んでいる。職員は前事業所からの継続勤務者が多く経験も豊富で、明るくて優しく、利用者一人ひとりに寄り添い、利用者は今ある能力を最大限発揮してその人らしく日々の生活を過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「地域の人々とのふれあいを大切に、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを送っていただけるよう支援します」を各ユニットに掲示して実践するよう日々努めている。	事業所理念を各ユニットに掲示し、朝礼時に職員が読み上げて共有し、日々のケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り回覧板を回したり、資源回収に協力するなど地域の一員となっている。コロナ禍で入居者様と地域の方との交流は出来ていない。	地域の一員として町内会に加入し、資源回収に協力したり回覧板を回すなど地域の人々とのふれあいを大切にしている。コロナ禍以前は自治会の祭り、事業所の行事へ相互に参加し交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解をして頂くよう、運営推進会議などでホームでの支援を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で本社より面会は許可されていない状況なので運営推進会議を行うことが出来ない。利用者やサービスの実際、評価への取り組みについて書面で報告している。	市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、家族などが参加して2か月に1回開催していたが、コロナ禍のため職員による書面会議(入居状況、行事報告、事故報告など)として関係者に結果を送付し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため書面会議を行い、結果を運営推進会議議事録として関係者に送付している。書面会議の結果の送付に当たっては、送付文書を添付するとともに、意見や助言についても受ける旨、明記することが求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北広島市や地域包括支援センター、グループホーム部会と電話やメールで情報交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政とは認定書類の提出や、電話やメールなどで連絡を取り合い、指導、助言を得て協力関係を築いている。市のグループホーム部会に参加し情報交換に努め横との連携を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を組織し、目標を立てて提示している。職員全員で実践した反省をまとめて記録に残している。身体拘束の弊害を理解し、繰り返し研修をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。防犯のため玄関は施錠している。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、目標を定めて身体拘束についての理解を深め、身体拘束をしないケアに努めている。利用者の安全を確保するため、夜間は必要な利用者の部屋にセンサーマットを敷いている。防犯のため玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は施設内で毎月研修テーマを決め資料を作成して学ぶ機会を作っている。高齢者虐待防止法についても繰り返し学び防止に努めている。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様があり必要と関係性を理解して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行い、疑問点を尋ね理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さまからは日々の生活の中で意見や要望を聞き取り反映している。家族さまからは、面会時や電話連絡時、ケアプラン見直し時などの機会に意見や要望を確認してケアに反映している。	利用者の意見、要望は日常生活の会話などから意向の把握に努め、家族には「グッドケア通信」を毎月送付して利用者の様子を知らせ、面会時や電話等で意見・要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を随時行い意見交換を行っている。また、面談を実施し意見や要望を聞き取っている。	日常の介護の現場、朝夕の申し送り時、会議などで職員の意見・提案・要望を聞いて話し合い運営に反映させている。又、管理者と個別面談も行っている。設備等の改善に関する要望は法人と協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人考課表で自己評価を行い管理者と面談を行っている。又職員調査表にて異動希望や総務人事に面談の希望の聞き取りを行い職場環境などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響にて研修を受ける機会はありませんでしたが、ホーム内で個人の力量を伸ばすよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者集會に参加し、勉強会や市の職員がグループホームに訪問して交流する機会を作りサービス向上に繋げていましたが、今年度はコロナの影響にて行われていない状況です。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前時に、本人と面談してご意向とご要望を確認した上で、スタッフに情報を周知し環境に不安なく慣れて頂けるように配慮している。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様と連絡をとりご意向とご要望を確認した上で、スタッフに情報を周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人様・ご家族様に面談をしご意向とご要望を確認し、ニーズの把握に努めている。ホームでは訪問歯科・訪問リハビリ・訪問美容・外出時の介護タクシーなどの利用を希望により対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に生活の色々な場面で感謝の言葉をかわしあう関係が作られており、入居者様を巻き込んだ居心地の良い環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の電話連絡時や面会時は普段の生活状況をお伝えしご要望の確認を随時行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍の為、お楽しみの外出は自粛とした。面会は中止または時間と人数を制限して行った。出来る範囲で継続している。	コロナ禍で、外食に出かけたり、イベント見物、ドライブなどは休止している。近くの公園を散歩して地域の方々や挨拶を交わしたり、時間制限して家族との面会や、馴染みの訪問理美容を受け入れるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事が無い様に、耳の遠い方には職員が間に入りより良い関係を築けるように支援している。体操レクや歌レクを行い、自然に会話が弾むように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により、サービス利用が終了した入居者様のご家族様と退去後も連絡を取り合う事が出来た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活や好み等の情報を聞き取り、ご本人様の要望に添った暮らしが出来るよう努めている。	入居時の聴き取り等から利用者の生活歴を把握し、日常生活を通じての会話、表情、家族の情報などから思いや意向の把握に努めている。意向がくみ取りにくい利用者には料理の本で写真を見てもらい笑顔とともに好みの写真を指さしてもらおう等意向の把握に工夫して、希望や意向に添うよう努めている。	

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様やケアマネージャー等から情報を提供して頂いている。また、ご本人様とお話しをし、これまでの生活を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や介助をさせて頂く中で、一人一人の心身状態などを毎日記録し職員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の状況に応じてプランの見直しを行っている。ご家族様とは電話連絡の際に要望等を都度確認している。また、カンファレンスを行い、職員間で意見を出し合い現状に合ったプラン作成をしている。	利用者、家族の意向を反映させ、医師の意見、担当する職員の気づき等も参考に会議で話し合い、短期6か月、長期1年毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の同意を得ている。状況に変化があるときはその都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人の日々の状況をケース記録に記入し職員間で情報共有を行い、その情報をもとに実践やケアプランに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの急拡大もあり、外部との多様な取り組みを実施することは難しかったが、ホーム内で出来る限りのことは行えた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの急拡大による外出制限や面会中止もあり、地域資源を積極的に活用できない中でも、馴染みの訪問理美容の方にホームに来てもらい髪を切ってもらえることが出来た。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	輪厚三愛病院・よしき内科クリニック・藤川歯科の訪問診療を定期で受診している。その他、個別に眼科・皮膚科・泌尿器科・メンタルクリニックなど必要に応じ都度受診対応している。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。訪問医が月2回、歯科医の訪問診療、訪問看護師が週1回利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度来る訪問看護師に本人の訴えや体調の変化等報告、相談し、健康管理に努めている。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療にきている病院と情報を共有し相談出来る関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について、ホームで出来る事を説明し同意を得ている。	契約時に利用者、家族に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明し同意を得ている。医師が看取り介護の必要性があると判断した場合は、本人、家族、看護師など関係者と話し合い、希望に添えるよう支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し緊急時に備え、会議の時等に緊急時の対応の仕方について確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間想定での火災や地震の避難訓練を実施している。	年3回(日中・夜間・地震想定)の避難訓練を実施している。災害時の連絡網(職員・消防署・警察・町内会長)を作成し、町内会長など変更される度に作り変え周知している。避難場所は近くの中学校となっている。水、食料、灯油ストーブ、カセットコンロ、電灯などを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、一人一人に合った声かけや、対応を心がけている。	言葉かけに気を付け、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。名前を呼ぶときは、姓にさんづけが基本であるが、家族が要望する呼び方をすることもある。介護日誌などの個人情報には鍵のかかる書庫で管理し、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認し、本人の思いや希望に添った対応が出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休まれる、テレビを観て過ごされる、家事の手伝いをしていただく等、その人らしい暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用を行っている。季節に合った衣類の交換を行い、本人の好きな服を着ていただいている。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は栄養士の考えた献立を提供している。他、季節や行事に合わせた献立や、入居者の希望を取り入れる事もある。	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材は業者から3日分ずつ冷凍品で宅配され事業所で調理する。ご飯・味噌汁は事業所で作っている。ひな祭り、端午の節句、クリスマス等には季節に合わせた献立や、誕生日などの行事食は利用者の希望に添った献立としている。以前は利用者の楽しみである外食を毎月実施していたが現在は寿司の出前やハンバーガーセットを用意するなどして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者其々の状態に応じて、量や形状を変えて提供している。水分量は季節や活動内容、各人の体調に合わせて調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアを促している。又、適切な介助や見守りを行い、口腔内の清潔保持に努めている。必要時は、歯科訪問による治療や相談を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ状況を把握している。様子や時間タイミングをみて誘導し、失敗を減らす様に支援している。夜間帯は必要に応じ、ポータブルトイレを利用することもある。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情、態度などから、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。利用者の能力に合わせてパッド・紙パンツを使用し夜のみおむつの利用もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日に2回、体操を行っている。又、タイミングを見ての声掛けや、水分量にも注意をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをし、ご本人の意向を尊重し、入浴をして頂いている。	週2～3回を基本に、お湯はその都度入れ替え何種類か用意した入浴剤から希望の入浴剤を選び、職員と会話をしながら楽しく入浴できるよう支援している。洗い場が広々としているので、利用者、介助者共にゆったりと入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者の習慣を尊重し。室温や灯り等は個人に合わせて、安心して眠れる様に配慮している。日中も、自由に休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や、訪問看護師、薬剤師と連携をとり、又、職員間の情報共有を密にし服薬管理を行っている。其々に合わせて薬杯を使用する等、服薬の支援を行っている。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色々な活動の提供をする。能力に合わせたお手伝いをして頂く。行事やレクリエーションの実施。生き生きとした生活が出来る様に支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの為、基本的に外出は自粛している状態です。	コロナ禍により、ドライブ、外食に行くなども制限されるが、感染対策をして近くの公園を散歩したり、8月にはホームの前で花火を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭管理を行う事は難しい状況にあるが、一人ひとりの希望に沿って必要な時には職員が代行して支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは本人の希望に添えるよう職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除機・モップがけを行い、汚れがみられた時はその都度掃除している。入浴時脱衣場にヒーターを入れ温度差が少なくなるように配慮している。	居間・食堂は一体的で、大きな窓から陽が入り明るく清潔で、パネルヒーター、加湿器を設置し、温・湿度・音など適正に管理され、季節に合わせた飾り付けをし、利用者は体操をしたり、歌を唄ったり、会話をしたり、テレビを見るなどして思い思いにゆったりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごしたりフロアで皆様と体操したり歌を唄ったり気の合った人と話をされて過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様が、ご本人様の昔の写真や使い慣れた家具などを持ち込み、入居者様も落ち着いて過ごされている。	クロゼットが備え付けられ、ベット、ダンスなど馴染みの家具や仏壇を持ち込み、写真などを飾って、自宅の雰囲気を感じさせる工夫をしている。又、職員と一緒に居室を掃除して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの暮らし方を見ながら生活環境を考えて生活しやすいようにしている。		